

# <サクセス・学習基礎資料>

## ■ ■ ■ ■ ■ 「英語」とは？ ■ ■ ■ ■ ■

### 1. なぜ「英語」なのか

#### ★歴史的背景

- (1) 大航海時代&植民地支配～産業革命&大英帝国
- (2) 政治・経済の覇者アメリカ

#### ★言語学的背景

国際舞台で主役を演じてきた諸言語(インド・ヨーロッパ語族)の中で、もっとも簡素で合理的な「英語」

#### ★「英語」グローバル化の現状

- (1) 世界人口の約1/3が英語を使用
- (2) 英語の公用・準公用語化に拍車(→EU統合/約120の国・機関)

↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

かくして 唯一の国際共通語

### 2. 英語の特徴としくみ

#### ★単語——英単語の見方と覚え方

- (1) 語源学的アプローチ  
接頭辞+語根+接尾辞
- (2) 同意語・反意語・派生語etc.  
頻出度and/or重要性

#### ★文/文章——英語の発想法①

- (1) 英文の順序

Who + [do] + What + How + Where + When + Why

I enjoyed my summer holidays to the full at college in Canada last year because I got a scholarship for the summer school program there.

<日本語訳>

昨年カナダの大学で、(私は、)夏期講座の奨学金を得て、夏休みを思う存分楽しめました。

→ When + Where + (Who) + Why + What + How + [do]

- (2) 「語」のつなぎ方と「文」の組み立て方

名詞+修飾語(句)=ヘッド・ファースト

- (3) 「句」と「文」の中の重要語[情報]の位置

その句や文の最後にある(代名詞etc.は除く)

- (4) 段落(paragraph)のしくみ

主題文→支持文→まとめの文 (☞ 後述参照)

- (5) 文節(passage)の論理展開法

序論→本論→結論 (☞ 後述参照)

★ 英語の<感覚>&<意識>——英語の発想法②

(1) 「時間」の感覚

- ☞ 特に「完了時制」&「時制の一致」  
She has studied English for 10 years.  
He said he was [would be] busy.

(2) 「数」の感覚と「特定感」の意識

- ☞ 不可算/可算名詞  
不定冠詞/定冠詞

(3) 対人関係(思想)とコトバ

- ☞ 年齢・身分などの「上下」の感覚 ⇔ 日本語文化との違い  
尊敬語法/謙譲語法がない  
呼称=「タイトル」  
(例)「Mr.」は敬称ではない
- ☞ くだけた表現とあらたまった表現  
敬意や丁寧度を示すための婉曲的表現  
強弱や抑揚(イントネーション)etc.

(4) 助詞の有無、動詞の変化 etc.

- ☞ 英語にない日本語の  
主語+「は」vs.「が」etc.  
「を」vs.「が」/「に」vs.「へ」etc.+目的語
- ☞ 英語的な「規則変化」vs.「不規則変化」など

★ 音声学的特徴——英語のDNA

(1) 発声(active)言語としての英語 ⇔ 日本語(受声(passive)言語

(2) 「子音」中心の「音節」単位で発音 ⇔ 日本語(「母音」中心

- ☞ 子音止め  
母音止め/「語」単位で発音

↓ ↓ ↓ ↓  
単語ごととまりである句(フレーズ)ごとに

と切って読む「フレーズ読み」が「鍵」!

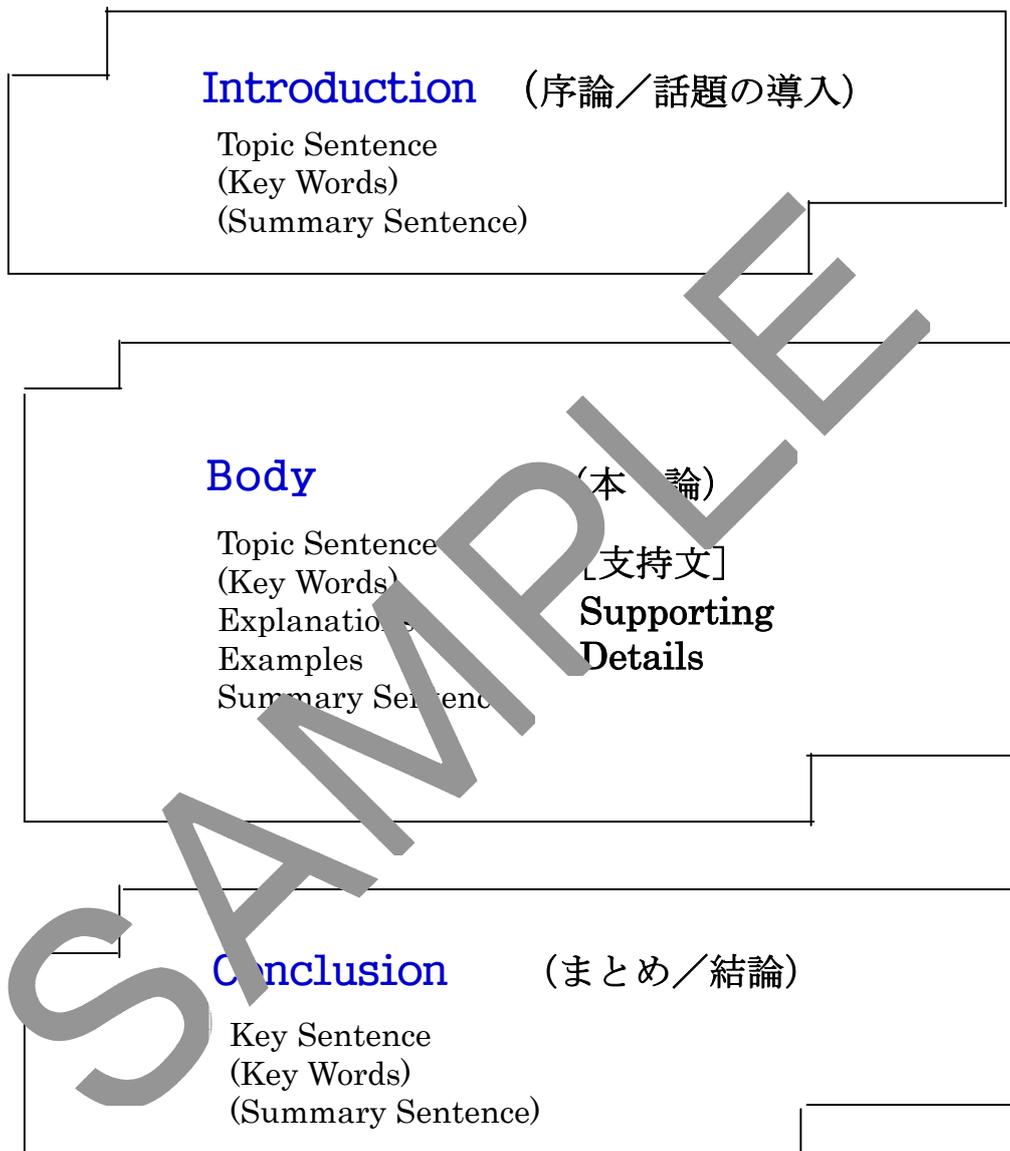
★ 英語の文章(長文)の成り立ち——英語の発想法③

(1) 「段落」(paragraph)

- ☞ 英米人はストレート(直進的)な論理を展開すると同時に、最初に大切なことを言う[書く]
- ☞ その反映である段落構成は、
  - ① Topic Sentence
  - ② Explanation
  - ③ (Example(s))
  - ④ (Summary Sentence)を基本[典型]とする!

(2) 「文節」(passage)

- ☞ 複数の段落を持ったpassage(読解問題本文など)は、書き手の主張がまとめられている一節であり、全体の構成は、段落(paragraph)構成の“拡大・発展版”と見ることができる
- ☞ 情報提供・論述・意見etc.を扱ったpassageの論理展開は、典型的に「序論」→「本論」→「結論」であり、以下のようになっている



- ☞ いわゆる長文読解問題の解法としては、書き手が表現し主張しようとしていることは立体的な空間をもった世界のことであるから、その“文脈”や“行間”をしっかりと捉え、単に平面的な二次元的読み方にとどまらずに、文字どおりに立体的なく三次元メソッドでactiveに「読」+「解」していく。そうすることで効率的で効果的なく速読・速解が可能となる。